

トルコギキョウのセル成型育苗法

(園試高冷地開発センター)

1. 背景とねらい

トルコギキョウは近年、品種が多様化する中で消費が拡大し、作型分化による周年生産体制が確立しつつあり、主要な花き品目となってきている。本県でも産地化に向けた取り組みが進んでいるが、産地の拡大を図るためには高品質安定生産のための作型や育苗の省力化技術の開発が求められている。県内には従来からの箱育苗も依然として多く定植労力がかかるため、省力的で安定したセル成型育苗の開発が課題となっている。

そこで、トルコギキョウの良苗育成を可能とする省力的なセル成型育苗法について検討してきたところ成果が得られたので参考に供する。

2. 技術の内容

1) セルトレイの種類と育苗培地

(1) トルコギキョウのセル成型育苗におけるセルトレイは合成樹脂製のセル容量15~9mlの200~288穴程度が適する。

(2) セル成型育苗において、3月~5月までの播種期間を通じた育苗培地としては窒素施用量が培地1l当たり100mg以内となるメトロミックス360、システムソイルが適する。

2) セル成型育苗の施肥法

(1) 播種期別育苗培地の施肥法

①メトロミックス360、システムソイルの育苗培地を利用した施肥法は以下のとおりである。

播種期	施肥法	内 容
3月~5月	追肥型	窒素量100mgを1週間おきに4~5回施用 または、50mgの場合3~4日間隔で8回施用
3月	基肥型	培地1l当たり細粒被覆燐硝安加里70日タイプを2g施用

②追肥には組合液肥(10-4-8)等を500~1,000倍で利用し、トレイ当たり500ml程度施用する。

(2) 追肥開始時期は播種後25~30日の時期からとする。また、最終追肥時期は定植1週間前とし、定植まで葉色を維持する。

3) 育苗期間は根鉢形成前期(セルトレイの底部に根回りした頃)までとし、根鉢形成前期を目安として定植する。

4) 適応地域 県下全域

3. 指導上の留意事項

1) 低温期の播種となる3月播種では窒素施用量が培地1l当たり170mg程度の培地の利用も

可能である。

- 2) 根鉢形成中期(セルトレイの底部1cm程度に根回りした頃)を根鉢形成の限界として遅れないように定植する。
- 3) セル成型育苗は慣行の箱育苗より定植作業時間が40%程度軽減できる。

4. 試験成績の概要

表1 基肥型培地、追肥型培地の定植時の苗質と採花時品質(H8、3月播種：F₁種；あずまの粧)

区	定植時の苗質 (65日目：5月29日)							採花時品質			
	葉数 (枚)	根鉢 ¹⁾ (%)				10株乾物重		根長	二次	切花長 (cm)	有効花蕾数 (個)
		◎	○	●	△	T ²⁾	R ³⁾	根数			
				(g)	(g)	(cm)	(本)				
基肥 型 M ₁₀ +細粒1g	2.0	0	60	30	10	0.06	0.03	5.6	13.3	88.8	12.0
M ₁₀ +細粒2g	2.1	20	70	10	0	0.09	0.07	6.0	14.6	89.6	12.5
M ₁₀	2.1	30	30	30	10	0.09	0.04	5.0	14.0	90.2	13.0
追肥 型 システム	2.1	0	60	20	20	0.09	0.04	4.8	15.0	89.2	13.7
切苗培土N170	2.1	40	20	30	10	0.10	0.06	6.5	14.3	90.5	12.5
慣行	2.1	-	-	-	-	0.08	0.03	6.5	14.7	84.9	13.6

根鉢¹⁾：◎；根鉢形成中期 ○；根鉢形成前期 ●；根鉢形成初期 △；根鉢形成前
T²⁾：地上部重 R³⁾：地下部重

表2 追肥量、追肥時期における定植時の苗質と採花時品質(H8、5月播種：F₁種；あすかの漣)

区	処理	定植時の苗質 (65日目：7月21日)							採花時品質			
		追肥時期		葉数 (枚)	葉身長 (cm)	根鉢 ¹⁾ (%)			10株乾物重 (g)	R ³⁾ (g)	切花長 (cm)	有効花蕾数 (個)
		開始	最終			○	●	△				
1,000倍	50mg×8回	6.18	7.9	2.6	1.7	100	0	0	0.22	0.10	90.5	10.2
500倍	100mg×4回	6.18	7.9	2.5	1.6	100	0	0	0.23	0.1	91.0	10.5
500倍	100mg×5回	6.18	7.14	3.0	1.9	100	0	0	0.34	0.1	93.0	11.3

注) 組合液肥2号1,000倍区は3~4日間隔で施用、500倍区は1週間おきに施用